

■高校野球のケーススタディー（第36回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 投球姿勢と投球動作について ~春季地区・県大会より~

令和6年度春季兵庫県大会は、社高校が16年ぶり3度目の優勝を果たし、幕を閉じました。

今春の高校野球特別規則の改正により高校野球でも投球姿勢、投球動作に対する解釈の変更があり、この地区大会や県大会でも自由な足を上げたときに上げ下げする「二段モーション」や自由な足を上げたときにいったん止める「一旦停止モーション」をする投手が多かったように思います。

今回は、次の事例を題材にして正しい投球動作について理解を深めていきましょう。

【事例1】

初回、先頭打者に対してセットポジションをとった右投手が自由な足（左足）を上げたとき、一旦停止した状況から投球しました。打者は2球目をレフトオーバーの2塁打で出塁、2番打者は【クイックモーションで投球した】、初球を、打者は送りバントを決め1死走者3塁となりました。この場面で、3番打者に対してセットポジションをとった投手が自由な足を上げたとき、再び一旦停止してから打者へ投球しました。審判員はこの投球に対しボークを適用し、3塁走者を本塁へ進めました。

★★★ 今回の規則改正で一旦停止モーションへの罰則はなくなったのではないのでしょうか。

★★★ 無走者時には罰則が適用されませんが、走者3塁ではボークが適用された理由は何でしょうか。

公認野球規則 6.02(a)(1)では、「投手板に触れている投手が、5.07(a)(1)および(2)項に定める投球動作に違反した場合、ボークとなる」と規定されています。

審判員は、一旦停止モーションが、この投球動作に違反すると判断しボークの宣告を行いました。

なぜ違反することになるのか公認野球規則 5.07(a)(1)(2)について確認しておきましょう。

「投手は、打者への投球動作を開始したならば、**中断**したり、**変更**したりしないでその投球を完了しなければならない」と規定されています。この「中断」、「変更」がキーワードとなります。

公認野球規則 5.07(a)(2)【注1】

“中断”とは・・・ ①投球動作を途中でやめてしまうこと

②投球動作中に一時停止したりすること

“変更”とは・・・ ①windアップポジションからセットポジション（またはその逆）へ移行すること

②投球動作から塁への送球（けん制）動作に変更すること

事例1では、自由な足を上げ投球動作を開始した後、**一時停止**したため、**投球動作の中断**と判断され、**ボークが適用**されました。

このように一旦停止モーションは、正規の投球動作ではないことが分かると思います。走者がいない場合、一旦停止モーションを行っても、反則投球とはならないため罰則（ボール）になる規定

はありませんが、走者がいる場合には、ポークの適用となることから、十分に注意しなければなりません。(反則投球とは・・・規則：定義 38)

【事例 2】

事例 1 と同様の場面、1 死 3 塁のとき、セットポジションをとった右投手が自由な足（左足）を上げたとき、上げ下げした状態(二段モーション)から打者へ投球した場合は、どのように取り扱われるのでしょうか。

二段モーションは、規則 5.07(a)(2)【注 1】に規定されている“中断”や“変更”に該当せず、**正規の投球動作**とみなされるため、**ポークの対象にはなりません。**

【事例 3】

事例 1 と同様の場面、1 死 3 塁のとき、セットポジションをとった右投手が自由な足（左足）を上げたとき、上げ下げした状態(二段モーション)から 3 塁へ送球した場合は、どのように取り扱われるのでしょうか

自由な足を上げ下げする二段モーションは、打者への投球が認められているものの、塁へ送球（けん制）した場合は、**投球動作の“変更”としてポークが適用**されます。

事例で紹介したように、右投手は、走者 3 塁のケースでは特に注意する必要があります。

第 35 回のケーススタディーでも投球姿勢と投球動作について解説していますので、合わせて参照してください。

また、春季県大会の中でポークを適用されたケースが数件ありました。特に多かった要因が、右投手の一塁けん制の際に、“軸足を投手板上で移行し送球する”ことでした。

今回、塁への送球についても整理しておきます。

公認野球規則 5.07(d)：塁への送球

「投手が、打者への投球動作を起こすまでなら、いつでも塁に送球することができるが、送球しようとする塁の方向へ直接踏み出すことが必要である。

規則 5.07(d)【注】

「投手板上で軸足が踏みかわっても、その動作が一挙動であればさしつかえない。しかし、送球前に軸足を投手板上でいったん踏みかえた後に送球すれば、軸足の投手板上の移行としてポークとなる。」

よく一挙動かどうかを問われることがありますが、その塁に対して**最初の動作で自由な足を踏み出し送球できているか**を基準に考えてみてください。例えば、右投手が投手板上で軸足（右足）を三塁側に踏みかえた後、一塁へ送球した場合は、踏みかえた動作が**最初の動作**であり、自由な足を踏み出すことが二番目の動作になりますので、一挙動とは言えません。この場合は、軸足の投手板上の移行としてポークとなります。

軸足を投手板から外さずに塁へ送球する場合は、軸足から始動するのではなく、自由な足を送球する塁の方向へ直接踏み出す意識を持ってください。

このことは、高校野球審判の手引き（日本高等学校野球連盟HPより参照可能）の「投手に関する規則」でも紹介されていますので、ぜひ参考にしてください。

表題デザイン協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：日下部 心咲さん（74 回生）